

くにしていじゅうようむけいみんぞくぶんかざい
【国指定重要無形民俗文化財】

せんだいおおつなひき

川内大綱引

(令和6年3月21日指定)



綱練の様子



本綱の様子

(写真提供：薩摩川内市教育委員会)

○ 所在地 しよざいち さつませんだいし 薩摩川内市

○ 所有者等 しよゆうしゃ 川内大綱引保存会

○ 特徴 とく ちょう

みなみきゅうしゅういつたい 南九州一帯は、じゅうごやつなひ 十五夜綱引きが盛んな地域で、さか 旧暦8月15日を中心にして、きゅうれき 豊作や無病息災などを祈願して綱引きを行う所が多くあります。川内大綱引は、ほうさく 薩摩川内市に伝承される大規模な綱引き行事です。

綱練と呼ばれる綱の制作と、つな 本綱とよばれる本番の綱引きから構成されています。つなねり 綱練は、行事当日の早朝より、多くの市民が参加して行われ、ほんづな 半日掛かりで綱の両端に「ワサ」と呼ばれる大きな輪が付く大きな一本綱を完成させます。

本綱は、当日の夜に上半身裸の男性が、かみかた 上方としもかた 下方に別れ、いちばんたいこ 一番太鼓やたいしょう 大将、おし 押大将などの指揮のもと太鼓隊、れんけい 押隊などの集団が連携し、ゆうそう 勇壮に引き合います。

川内大綱引は、しょうぎょうち 商業地を背景とした競技性の強い綱引き行事として発展してきました。九州地方における綱引き行事の地域的な展開や我が国における綱引き行事の変遷を理解する上で重要です。